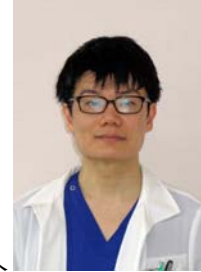


## 和歌山病院での実習を終えて



津田 郁久

私は7月に和歌山病院呼吸器内科で研修をさせていただきました。

初診外来とそのフォローを担当する、担当患者の主治医として入院治療にあたる、というこれまでにない経験を積むことができました。普段の研修以上に身の引き締まる思いでしたが、どちらも上級医の先生にいつでも相談できる環境でしたので不安を感じることはありませんでした。初診外来では、患者さんの最も悪い経過を想定しつつも、経過をみて次回の外来を設定するという考え方を学びました。入院患者さんの手技の面でも気胸のドレナージとその管理、気管支鏡での観察などを指導していただく機会に恵まれました。

また結核の診断や治療に携わることができました。紹介入院後にMAC症の診断となった方、喀痰鏡検もPCRも陰性であったのに培養から結核菌が同定された方など、様々な患者さんが和歌山病院には紹介されてきます。患者さんへの結核菌の感染様式や抗結核薬の副作用の説明、DOTSの重要性、喀痰塗抹標本の全視野からたった一つの抗酸菌を見つける検査技師さんの丁寧な仕事ぶりなど大変勉強になることばかりでした。今後も結核を疑った際には、適切な対応と患者さんへの説明ができるように心がけたいと思います。

短い期間でしたが、大変充実した研修を送ることができました。

研修の申し込みを快く引き受けてくださった駿田先生はじめ諸先生方、スタッフの皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。